

1 年 B 組 技術・家庭科(家庭分野) 学習指導案

指導者 土手 佳代

1 時 間 (場 所) 10:00～10:50 (被服室)

2 個人研究テーマ

生活の中の課題を見付け、解決する力の育成
一習得した知識や技能を生活に生かす力の育成一

3 研究テーマ設定の理由

家庭分野における自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、これからの生活を展望してよりよい生活にしていこうとする力は、まさに持続可能な社会の形成に必要な資質・能力である。しかし、家族の多様化や家事の外部化などの社会の変化に伴い、消費行動と環境との関わり、文化の伝承、他者との共生といった、持続可能な社会の形成に必要な要素は、学ぶ機会がなければ身に付けることができなくなっているというのが実情である。

実際の生活場面を想定した問題解決的な学習を通して、生徒は知識や知恵を出し合い、多面的・多角的なものの考え方に触れ、改めて自分の生活の課題に気付くことができる。また、様々な立場に立って課題を考えることが、よりよい生活や社会に変えたいという意識や実践しようとする力につながるのではないかと考え、昨年度に引き続いて本研究テーマを設定した。

4 題材名 安全で快適な住まい方を工夫しよう

5 題材目標

家族の住空間について住居の基本的な機能について理解し、家族の安全を考えた室内環境の整え方や快適な住まい方を工夫することができる。

〔本質的な問い〕

安全で快適な住生活を送るためには、どのような工夫が必要だろう。

〔永続的な理解〕

住まいには自然災害などから命を守る、心身の健康を維持する、子どもが育つ基盤となる、などのほたらきがある。人間らしく生き、家族の生命と生活を守る器として、さらには持続可能な社会の基盤として大変重要である。そのため、住まいは住まう人にとって安全であるとともに快適である必要があり、家族や社会の変化に合わせて、よりよい住空間に整えていくことが大切である。また、今後予想される大規模な地震などから身を守るためには、強固な住まいとともに、安全な住まい方や地域、環境とのつながりを意識した住まい方が不可欠である。

6 本題材と研究テーマとの関わり

(1) 生徒について

生徒は東日本大震災や熊本地震などをメディアを通して経験し、震災に対する意識や関心は高い。一方で、自然災害が少ない松山市近郊で生活する生徒にとっては、知識はあっても災害に対する備えについては十分とは言えない。また、住生活に関する内容については、生徒は与えられた空間を利用していることが多く、自らの意志で自ら住空間を整えたり、手を加えたりする機会は限られている。しかし、30年以内に70%の確率で起こると言われている南海トラフ地震や近年のゲリラ豪雨の増加などを考えると、中学生自らが生活の主体者となって住まいを考え、工夫していくことはとても重要である。そのため、学んだ知識や技能を実際の生活に生かす機会へとつなげてきたい。

(2) 題材について

住まいは、人間らしく生きるため、家族の生命と生活を守る器としてたいへん重要である。そのため、住まいは住まう人にとって安全であるとともに快適である必要がある。思春期の中学生は、家族との関わり方が物質的にも精神的にも変化の途中にある。自分だけの空間でプライバシーを守りながら、居心地の良い空間を欲するようになる頃でもある。一方で、幼児から

お年寄りまで異年齢で家族を構成しているため、様々な立場に立って安全で快適な住まいとは何かを考え、人と住まいとをつながけながら、よりよい住空間に整えていくことが大切である。また、今後予想される大規模な地震や異常気象による自然災害などから身を守るためには、強固な住まいとともに、安全な住まい方が不可欠である。また、家族だけでなく地域社会とのつながりを意識しながらよりよい住まい方をしていくことも重要である。

(3) 指導について

家庭分野では、論理的に思考し表現する力を「課題解決に向けて、自分の考えや方法を根拠や理由を明確にし、表現することができる力」と捉えている。これを発揮しながら題材の目標に迫れるよう、以下の二つのことを取り入れる。

一つ目は、住生活を取り巻く課題解決の活動を班で役割分担して行う。それぞれが役割を持って活動することによって、より意欲的に学ぶことができる。また、班で学習したことを持ち寄って学び合いをさせることで多面的・多角的に問題を考えたり、関連性を見付けたりすることができ、学習の深化が期待できる。

二つ目は、二段階での課題解決を行う。始めに、モデル家族とその住まいを仮定し、その住まいや住まい方の課題解決に協同で取り組む。また、個人の取組についてはアドバイスしづらいという傾向から、共通課題を取り上げて考えることにより、アドバイスすることへの抵抗感が少なくなると考えた。それにより、課題解決の方法が想定しやすくなる。次に、自分の生活を振り返って、自分の住生活の問題発見や課題解決をする。

これらの活動を通して、生徒はこれまでの学習で習得した知識や技能をどのように実際の生活に生かすことができるか具体的に考えて工夫するようになると考える。

以上二つを指導することで、題材の目標に迫りたい。

7 評価目標と評価方法

評価目標（観点）	評価方法（視点）
①安全で快適な室内環境の整え方や住まい方に 関心を持って学習活動に取り組み、住生活を よりよくしようとしている。 （生活や技術への意欲・関心・態度） ②安全で快適な室内環境の整え方と住まい方 について課題を見付け、その解決を目指して工 夫している。（生活を工夫し創造する能力） ③住まいの機能について理解し、安全で快適な 室内環境の整え方と住まい方に関する基礎的 ・基本的な知識を身に付けている。 （生活や技術についての知識・理解）	◎パフォーマンス課題 あなたは、両親・小3の妹・2歳の弟・ 祖母の6人家族です。祖母は現在右ひざの 手術で入院中です。家庭科の学習を生かし て祖母の寝室の改造計画を立てることにし ました。計画後は家族に提案し、実践する 予定です。退院後、祖母が安全で快適に過 ごせるように、防災の対策も取り入れて改 造計画を立てなさい。（評価目標の①②③） ○観察（評価目標の①） ○ワークシート（評価目標の①②③） ○ペーパーテスト（評価目標の②③）

8 指導計画（全7時間）

学習内容	評価規準（観点）	時間
1 住まいの役割と住空間の特徴 を理解しよう。	◇住まいの役割と住空間の機能に関する基礎的 ・基本的な知識を身に付けている。 （生活や技術についての知識・理解）	2
2 家庭内の事故を予防する安全 な住まい方を工夫しよう。	◇安全で快適な室内環境の整え方や住まい方に 関心を持って学習活動に取り組み、住生活を よりよくしようとしている。 （生活や技術への意欲・関心・態度）	1
3 災害に備えた安全な住まい方 を工夫しよう。	◇安全で快適な室内環境の整え方と住まい方 について課題を見付け、その解決を目指して工 夫している。（生活を工夫し創造する能力）	2 本時 (その1)

4 より快適な住まい方を工夫しよう。	◇安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 (生活や技術についての知識・理解)	1
5 自分の住生活の問題を見付け、解決に向けて実践計画を立てる。	◇住生活の課題解決を目指した改善方法を自分なりに考え、具体的な実践計画を工夫することができる。 (生活を工夫し創造する能力)	1

9 本時の指導（4 / 7 時間）

(1) 主 題 地震に備えた安全な住まいにするには、住まい方をどう工夫すればいいだろう。

(2) ねらい

災害時に起こりうる問題と対策方法を理解し、災害に備えた安全な住まい方を工夫しようとしている。

学習活動（形態）	時間	学習の流れ			○指導の工夫 ◇評価（方法）					
		分かる	考える	実践する						
1 学習課題を確認する。 （一斉）	3	地震に備えた安全な住まいにするには、住まい方をどう工夫すればいいだろう。			○災害時の場面や起こりうる問題をイメージさせるために過去の震災の写真や映像を見せる。 ○安全な住まい方を工夫させるために、仮想家族のそれぞれの立場から空間の使い方や特徴から起こりうる問題を想起させ、工夫を考えさせる。 ○多面的に考えさせるために、家族会議の形式で考えたことを学び合わせる。					
2 学習課題の解決に取り組む。 （個人） （小集団）	35 (5) (10)	仮想家族の立場から、住空間毎に地震に備えた住まい方の工夫を考える。 <table><tr><td>母</td><td>兄 (中学生)</td><td>妹 (小学生)</td><td>弟 (幼児)</td><td>祖母</td></tr></table>				母	兄 (中学生)	妹 (小学生)	弟 (幼児)	祖母
母	兄 (中学生)	妹 (小学生)	弟 (幼児)	祖母						
（小集団）	(10)	家族会議をする。								
（全体）	(10)	発表する。								
		地震に備えた安全な住まい方の工夫の方法が分かる。								
3 自分の課題を見付け、解決方法を工夫する。（個人）	10	自分の生活を振り返り、災害に備えて実践したい工夫を考える。			◇災害時に起こりうる問題と住まいの災害に備えた安全な住まい方の方法を理解し、工夫しようとしている。 （ワークシート）					
4 次時の課題が分かる。 （一斉）	2	次時の課題を確認する。								
授業研究の視点	二段階での問題解決を目指した学びは、生活の中の課題を見付け、解決する方法を身に付けることにつながる授業展開であったか。									

MEMO